公益財団法人
浦上食品・食文化振興財団
URAKAMI FOUNDATION

NEWS December 2014

CONTENTS

● 理事長挨拶
● 学術研究助成事業
• 近年助成した研究からご紹介

● 食文化の振興・啓発および協賛活動
• 浦上ランチプロジェクト（ラオスにおける学校給食プロジェクト）
• カレーアクション事業を後援
• H26 年度東日本大震災復興支援事業
• フードピア金沢を支援
• 読売写真ニュースを学校に寄贈

● 広報活動
● 事務局より
• お知らせ
• 編集後記

理事長挨拶

2014年も11月半ばになりました。私にとりまして最近とみに時間の流れが速く、今年も残すところ少なくなりました。先日イタリアに旅行したとき、季節外れの嵐が3つ立て続けにイタリアを縦断し、現地のテレビ画面で各地の洪水やローマのコロッセオが水に浸かっている場面を目にしました。日本でも広島で豪雨により山が崩れ住宅地が流されたり、つい先ほどまで景色を楽しんでいた御嶽山が突然噴火したり多数の犠牲者を出しました。私が学校で習ったときは死火山、休火山、活火山と分類していましたが、現在では一万年以内に噴火した火山を皆、活火山と分類するそうです。311震災以降想定外という言葉が良く使われますが地球は確かに変化しています。

また、円安になり日経平均株価は上昇しましたが、原材料を輸入している企業や下請け中小企業にとっては厳しい経営を強いられ、今一つ景気の上昇とはいかないようです。そのような現状ではありますがおかげさまで浦上財団は基本財産であるハウス食品グループ本社株式会社の安定した高配当と創立100周年記念配当を受けて充実した活動を行うことができました。

当財団の委託事業であるラオスにおけるランチプロジェクトのセミナーが今年 3月に現地でありました。プロジェクトを実施しているハドシェンジー小学校・中学校、そしてポンサイ小学校の校長先生に加え教育省幹部のヤンシア＝リー女史の4人が発表し、私も出席しました。

セミナー前後の日にも実施校を訪れ、畑で雑草取りなど子供たちと一緒に農作業し、ランチには子供たちの仲間に入りご飯を分けてもらいながらその日の給食である鶏肉と野菜、キノコのスープをいただきました。もち米のご飯もスープの味も大変おいしかったです。ラオスでは気候が雨季と乾季に分かれ、乾季では村の5つの井戸の内3つが涸れるなど水が問題になっていますが、村人がお金を出し合い溜池を作り対策を図っています。週１日から始まったこのランチプロジェクトも3年目を迎える今年度は週5日実施されるようになりました。何とかこのランチプロジェクトが私ども浦上財団の手を放れ、それぞれの学校で自立して運営できるようになり学校給食のモデル校になってほしいと強く願っております。

10月にはもう一つの事業である東日本大震災復興支援の支援金贈呈式や現地を訪問することで皆様のお話を伺う機会を持ちました。多くの支援活動のグループができても、それを継続していくには明確なヴィジョンを持ってそれを実行するリーダーと活動を事務的、経理的に支えるスタッフが必要であることを実感しました。なににも増して復興を支援する大事なことは東北のものだからと買い控えたりせず、一番厳しい検査の下に市場に出ていることを理解し国民一人一人が応援することだと思いました。こうして当財団が一年一年充実した活動できるのは日頃からご支援いただいている皆様のおかげと心より感謝しています。
どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げます。

学術研究助成事業贈呈式で
挨拶する理事長

主な活動紹介

学術研究助成事業

学術研究助成事業は財団設立以来の当財団の一番の活動です。食品加工技術、食品と健康、香辛料食品、食嗜好、食品の安全性、の５つの分野を掲げ日本全国の国公私立の大学・研究所等に対して研究助成事業を行なっております。研究テーマ１件当たり３百万円を限度とする助成額は消耗品や試薬だけ、機械だけ、にならず研究に使いやすい額のようで好評いただいております。

ホームページや研究機関へのはがき等で広く応募者を募り、6月1日から7月10日の申請期間に231件の応募を受付けました。9月初旬、学識経験者で構成される選考委員会で厳正な審査を経て19名の研究者への助成を決定しました。

贈呈式は10月７日にホテルニューオータニにて行われました。前日の6日は台風18号が日本列島を縦断し心配しましたが、明けて7日は台風一過の青空のもと、晴れやかに贈呈式を開催することができました。浦上理事長の「ハウス食品100周年による記念配当もあり今年は予算も大きく確保でき、皆さまを助成できました」との挨拶に続き、伏木選考委員会議長より「大きな研究の内の一部の研究よりはむしろ小さくても自分で立ちあげた研究を遂行していく研究者や新たに研究室を構えた方を支援したいということ、全申請数に対する５分野毎の申請数での按分などではなくこれからの食品産業にとって大事な分野や研究ということを重視して選考にあたりました。皆さん自信を持って研究を進めてください。」と話され研究者の方々を激励なさいました。また、贈呈目録授与式に続く懇親会でも研究代表者の方々、選考委員、当財団役員で和やかで積極的な意見交換が行われ、有意義なひと時となりました。おかげさまで当財団設立から第29回までの助成件数は329件、助成金総額は８億７千万円強となりました。

助成した研究の成果は、浦上財団研究報告書としてまとめられ、これまで21号まで発刊されています。今年度も22号を発行いたします。今までの研究の一例を後ページに掲げました。ご一読ください。

選考経過を述べる伏木選考委員会議長

理事長より贈呈書を受け取る研究者

集合写真

～近年助成した研究からご紹介～

当財団が助成している研究の多くは学術的・専門的ですが、「食」は私たちの日常にも大きくかかわってきます。そこで今年3月発行した浦上財団研究報告書Vol.21に掲載された研究報告より2名の先生に研究の成果を解りやすく書き下ろしていただきました。渡辺先生は糖尿病合併症予防・軽減食品の開発のための基礎的知見について、平井先生は肥満と骨粗鬆症の両方を予防可能な香辛料成分についてご研究なさいました。

平成24（2012）年度助成

「メイラード反応を阻害する成分の探索」

明治大学農学部　渡　辺　寛　人

わが国の糖尿病患者は増加する傾向にあり、網膜症や腎症など患者のQOL（生活の質）を著しく低下させる糖尿病合併症の予防・治療法開発が重要な課題となっています。糖尿病合併症の発症にはさまざまな因子の関与が示唆されていますが、近年の研究により体内に蓄積するメイラード反応生成物の関与が明らかとなってきました。

メイラード反応とはタンパク質などに含まれるアミノ基が、グルコースなどの糖類と反応するもので、「AGE」と呼ばれる複雑な構造がタンパク質に形成されます。糖尿病患者の体内ではこの反応が進みやすく、蓄積したAGEが細胞機能障害をひきおこして合併症につながると考えられています。

したがってこの反応を抑えてAGEの形成量を低下させる化合物・薬剤は、合併症の予防効果をもつと期待されます。実際にこの目的を満たすものとして多くの薬剤が挙げられていますが、強い副作用などの問題からほとんどの場合実用化には至っていません。

そこでより安全な反応阻害成分を食品より見出すことを目的とし、「反応初期の中間体を分解する」という新たな作用をもつ成分に着目して探索を行いました。その結果、ビタミンB_2関連の成分により反応中間体が分解されて元のアミノ基が再生すること、またその成分を共存させることにより、ある種のAGEの形成量が有意に低下することがわかりました。実際にこの成分が合併症発症を抑制することを確認するためには、解決すべき多くの課題が残されていますが、従来の薬剤に加えて、新たな作用点による反応阻害成分を組みあわせることにより、効果が高く安全性の高い合併症予防法の開発につながる可能性が考えられます。

平成24（2012）年度助成

「香辛料成分による肥満および骨粗鬆症の同時予防効果」

千葉大学大学院園芸学研究科　平　井　　静

肥満と骨粗鬆症は、現代の日本で罹患者が非常に多い疾患です。肥満は脂肪細胞の増加や肥大化が、骨粗鬆症は骨芽細胞活性の低下が発症の一因ですが、生体内でこれらの細胞はいずれも同じ間葉系幹細胞から分化して生じます。閉経後女性は、この細胞の分化を脂肪細胞ではなく骨芽細胞へ傾ける女性ホルモンが欠乏するため、肥満と骨粗鬆症が誘発されやすくなります。

Peroxisome Proliferator-Activated Receptor γ（PPARγ）という核内転写因子が活性化されると、脂肪細胞への分化が促進されるとともに骨芽細胞への分化が抑制されます。そこで我々は、日常の食生活の改善による肥満と骨粗鬆症の同時予防を目的としてPPARγ活性の抑制作用を示す香辛料のスクリーニングを行いました。

その結果、セロリシード、白胡椒、スペアミント、セージ、メース、ローズマリー、オレガノにPPARγの抑制作用を見出しました。中でもセージとローズマリーは、エタノール粗抽出物のような混合物でも脂肪細胞分化を抑制したことから、非常に強力なPPARγ抑制成分を含有していると考えられました。

また、これまでの研究で、海産物由来のカロテノイド色素にPPARγ活性の抑制作用を見出していたため、唐辛子やパプリカに多いカロテノイド（カプサンチン*）でも実験を行ったところ、カプサンチンはPPARγ活性の抑制作用はないものの、間葉系幹細胞を脂肪細胞ではなく骨芽細胞に分化させること、また卵巣摘出による閉経後骨粗鬆症モデルマウスで骨質を改善させる可能性も見出しました。

ヒトでの効果は今後の検討課題ですが、これらの香辛料由来の新規PPARγ抑制成分は、脂肪細胞分化抑制および骨芽細胞分化促進作用を介して、肥満と骨粗鬆症を同時に予防する可能性を秘めていると考えられます。

*事務局注：カプサンチンは赤い色素成分で辛味成分のカプサイシンとは別の成分

食文化の振興・啓発および協賛活動

■浦上ランチプロジェクト（ラオスにおける学校給食プロジェクト）

❖モデル事業３年目に

ラオスはメコン５か国の中でも海に面していない内陸国で、後発発展途上国の一つです。ここ数年で教育の大切さの啓発が広まり義務教育である小学校にも行けない子供は随分と減ってきました。しかしまだ貧しい家庭も多く、毎日の食事を充分にとることができず学校でもお腹がすいて授業に集中できないため授業内容についていけなくなってしまったり、通常の小学校では給食がないため昼食のために家に戻るのですが、一度帰宅すると畑仕事や家事・弟妹の世話などで午後の授業は通えなかったりする子どももいます。また、親も栄養バランスについての知識が充分ではなくともすれば野菜不足になりがちです。

浦上財団は就学率向上や子供たちの学力・体格の向上、お母さん方の栄養知識の向上をめざし、奨学金事業で既にラオスで実績のある公益財団法人 民際センターに委託して学校給食モデル事業を小学校２校、中学校１校で平成24年度より始めています。この事業は地域の役場、学校の先生、お母さん方が一致協力して進め、最終的には自立できる体制づくりを目指しています。

❖食材も自分たちで

浦上ランチプロジェクトでは提供するのはおかずだけでご飯は子供たちが家から持ってきます。調理は村のお母さんがたです。食材は市場で買ったりもしますが、学校の敷地内に畑やキノコ栽培小屋、鶏舎、ナマズ養殖池を用意し、野菜や鶏、ナマズなど食材も子供たちが育てます。雨季には種や苗が流れるので植えつけもできなかったり乾季は水不足に悩んだり、野菜を育てるのも苦労がありますが、堆肥の工夫などより適切な育て方を学びながら頑張っています。育てた野菜や鶏は給食にも使用しますが市場が品薄の高く売れるときは市場で売って食材の購入資金にもしたりします。初年度は週１度のランチ提供でしたが２年目は週３回、今年９月からの３年目は週５回、つまり毎日提供しています。週５回の提供は収穫量など解決すべき課題も多いのですが、持続可能な仕組みを探りながら頑張っています。併せて行なっている栄養バランスなどの知識や食前の手洗い・食後の歯磨きなどの保健衛生の知識はだいぶ子供たちやお母さんがたに広まりましたので、今年はなぜそれが大切なのか、など知識を深める啓蒙を進めます。

1つのお皿で２人分の鶏と野菜のスープを食べています

キノコに水やりする生徒

上下水道はないので校庭の端の井戸からポンプとホースで水を引きやすい場所で水仕事を行います

❖セミナー開催

2014年３月にはモデル校の１つで教育省や県教育委員会の方が出席してセミナーを開催しモデル３校が発表しました。発表することで実施校にとって大きな自信を得、課題も成果も明らかになり、村が一致団結しランチに対する熱意高揚に役立ちました。浦上理事長も出席し、課題は多いものの子供たちの為に村の皆さんが協力して頑張っている姿に感動し激励すると、校長先生たちや村の長老がたから感謝の言葉を頂きました。

子供たちと畑で草取りをする理事長

セミナーで成果と課題を発表するハドシェンジー中学校長

食文化の振興・啓発および協賛活動

東日本大震災復興支援事業

東日本大震災から３年半が経ち復興も進んできてはいます。しかし沿岸地域のかさ上げ工事や防災集団移転（高台移転）、災害公営住宅（復興住宅）工事など、地道に工事が進められていても完成に達してなかったり、主産業の１つ水産業では水揚げ高が戻ってきてもこの数年で他の供給ルートが確立されており販路の再開拓をしなければならなかったりなど復興までにはまだまだ時間が必要です。今後は復興住宅への移転が進むと復興住宅内やもともとその地域に住んでいる住民とのコミュニティ形成や仮設に残る方々への支援など、復興のフェーズが進むとそのフェーズに沿った新たな支援ニーズが生まれます。

そのような状況の中、復興の為に被災者ご自身を含め多くの方がさまざまな活動をなさっておられます。浦上財団もそうした震災地域のニーズに沿った活動を行なっているNPO等諸団体を支援することを通じて、ささやかではありますが被災地復興のお役に立ちたい思いで東日本大震災復興支援事業を実施しております。

支援活動テーマ	支援活動団体	代表者名	活動場所	支援金額
ほっこりフーズ文化創造事業	ほっこりみやこ実行委員会	金野　侑	岩手県宮古市周辺地域	50 万円
料理体験プログラム（おがつキッチン）	公益社団法人 sweet treat 311	立花　貴	宮城県石巻市雄勝町	100 万円
東日本大震災被災地石巻市の衣食住の伝統文化を踏まえた新たな地域特産物の創造による生活支援活動	一般社団法人 日本家政学会	牛腸　ヒロミ	宮城県石巻市	100 万円
食育による被災地の農業復興を目指した親子農業食育事業	南相馬サイエンスラボ	齋藤　実	福島県南相馬市	46 万円
原発事故による放射能汚染農地再生と飼料用作物栽培技術の実証（3年目の挑戦）	NPO法人 懸の森みどりファーム	半杭　一成	福島県南相馬市小高区大富地内	100 万円
障がい者への就労機会創出と被災者との交流拡大を目的とした農産物栽培加工事業	NPO法人 交流ステーションみのり	白川　くみ子	福島県いわき市	100 万円

～昨年支援した活動からご紹介～

「小さな第一歩を大きなステップに」

NPO法人 交流ステーションみのり
理事長　白川くみ子

わたし達は知的障がい児を持つ保護者たちで作ったNPOで、震災前の平成22年秋、5坪ほどの畑に鍬を入れたことが活動の第一歩でした。農作業経験者は一人もおらず資金的な裏付けもない中でのスタートでしたが、こどもの将来を少しでもいきがいのあるものにしたいという一念で結束して活動を始めたのです。

活動内容は、サツマイモなど農産品の栽培収穫と干し芋などに加工した製品の販売で、生産・販売工程の一部を福祉作業所に委託することを通じて、障がい者にいきがいのある仕事を創造・提供しようという取組みです。幸いにも、その活動内容に理解をいただけた地元のみなさんから、まとまった耕地の提供など物心両面のあたたかい励ましをいただき、平成26年シーズンには２反の耕作地に2,800本の苗を栽培するまでに活動は広がりをみせるようになりました。

2014年6月　サツマイモの苗の植え付けの様子。原発事故でいわき市に避難されているみなさんがボランティアで参加してくださり、農作業のノウハウも授けてくださいます。「一日中仮設住宅にいるよりも気分が晴ればれして楽しい。」という声をいただいています。

すべてが手作業であるため慢性的な人手不足にあることが大きな課題ですが、福島第一原発事故でいわき市に避難をされている農家のみなさんが呼びかけに応じてボランティアで参加していただいていることにはたいへん感謝しています。昨年度から本格的に始めた干し芋は手作業での天日干しの為商品の品質は上々で皆さんからご好評を頂き、また販売に使用する袋の製造を福祉作業所に作業委託しましたが障がい者の皆さんが生き生きと作業に従事してくれています。貴財団の助成金もボランティア参加者への報償費などに活用させてもらい、わたし達の活動を力強く支えてくれています。

頼りないスタートだった小さな第一歩を大きくステップさせるためにがんばっていきますので、変わらない励ましをお願いします。

食文化の振興・啓発および協賛活動

カレーアクション事業を後援

昨年に引き続き今年も農業王国で地産地消が容易な北海道と九州（4月札幌市、5月福岡市）における「カレーアクション」に後援しました。両会場でカレー総合研究所の井上岳久代表取締役によるカレーの魅力についてのセミナーが開かれ、北海道では北海道産の牛肉や海産物のカレーの試食コンテストが、九州ではゆるキャラによる九州各県特産の夏野菜の紹介とその夏野菜を使ったカレーの試食がありました。

札幌会場

道産農・水産物を使ったカレーコンテスト

福岡会場

JA宮崎経済連とグリーンザウルスによる宮崎県産ピーマンの紹介

フードピア金沢を支援

独自の食文化がある石川県の冬の日本海の海の幸・加賀野菜を紹介する食のイベント「フードピア金沢」は毎年2月に金沢市を中心に石川県下で開催され、当財団は第1回（1985年）より支援しています。

石川の冬の味覚を家族連れやグループで楽しめる屋台村「フードピアランド」は今までの香林坊の中央公園から2014年は石川県産業展示館に変更され、会場も広くなり、また天候に左右されなくなりました。人気の囲炉裏村は駐車場を解放した屋外に配置され、テントも増設され能登牡蠣や能登牛の炭火焼きに皆様舌鼓をうっておられました。

フードピアランドの囲炉裏村

読売写真ニュースを学校に寄贈

『「食」は「人」に「良」いこと、元気のもと』の標語をパネルに用い、「食育」に熱心に取り組んでいる小学校を軸に中学校、高校、図書館に教材資料として毎週写真ニュースを提供しています。

小学校等に寄贈しているパネルの一例

広報活動

研究報告書の発行

助成した研究のうち昨年秋までに報告をいただいた17件を浦上財団研究報告書Vol.21にまとめ今年3月に発行し、全国の研究機関附属図書館や都道府県立図書館にお送りしました。また、今年の秋までに当財団に提出された研究報告を収めた研究報告書Vol.22を来年3月に発行する予定です。

財団HPの更新・財団リーフレットの配布、財団ニュースの発行

浦上財団はこれまでに機会をとらえてHPの充実を図ってきましたが、新公益法人制度では公益法人の情報公開の充実強化が最重要事項の一つに挙げられていることに対応するため、これまで親身にきめ細かな助言を下さっていた株式会社心力舎様に依頼し、HP訪問者の利便性をさらに高める改良を施しました。今後は、研究助成事業などの申請フォームを改善します。これにより申請者の負担軽減や事務処理の効率化を図られることでしょう。ご期待ください。

また、財団の事業活動や寄付金の募集活動などを紹介したリーフレットや写真を多く使って12月にその年の活動をまとめた財団ニュースを発行しております。

事務局より

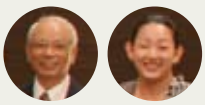
お知らせ

浦上財団は公益財団法人ですので、ご寄付くださった皆様が減税を受けることができます。当財団からお送りする寄付領収書を添付して所得税の確定申告をなさってください。(2011年に設けられた税額控除には当財団へのご寄付は適用されません。)また、当財団は東京都条例により個人都民税の寄附控除が受けられる団体として指定されております。都内にお住まいの方は住民税欄・都民税の寄付金控除のご記載もどうぞお忘れなく (*^-^)b

● 編集後記

東日本大震災復興支援事業の関連で、今年3年目の支援をさせていただく公益社団法人sweet treat 311さまの活動地にお邪魔いたしました。雄勝地区にある旧桑浜小学校を60名の宿泊施設やレストラン、体験研修スペースへとさらなる活動の場に生まれ変わらせる「学校再建プロジェクト」を通常の活動と併せて進めてらっしゃいます。資金面ではクラウドファンディングで、改築作業では流れ込んでいた土砂の壁撤去からお風呂づくりまで全国の多くのボランティアがこのプロジェクトを支援していることを目の当たりにし、多くの方が復興支援の熱い思いを抱いてらっしゃることが分かります。浦上財団が支援している雄勝キッチンもこの施設で行われると伺い、施設の完成を心待ちにしているところです。

（森川洋典：浦上佳江）



〈お問い合わせは下記まで〉

公益財団法人 浦上食品・食文化振興財団

〒102-8560 東京都千代田区紀尾井町 6-3 ハウス食品グループ本社ビル

電話：050-3532-6365 FAX：03-3264-6188

E-Mail: main@urakamizaidan.or.jp URL: http://www.urakamizaidan.or.jp